

大分市関崎海星館施設整備基本構想 概要版

1 基本構想の目的

大分市関崎海星館は、平成7年（1995年）4月に星空などの天体観測ができる「生涯学習の場」、四季折々の花々や豊後水道を一望できる景観を活かした「観光スポット」として開館し、24年が経過しました。

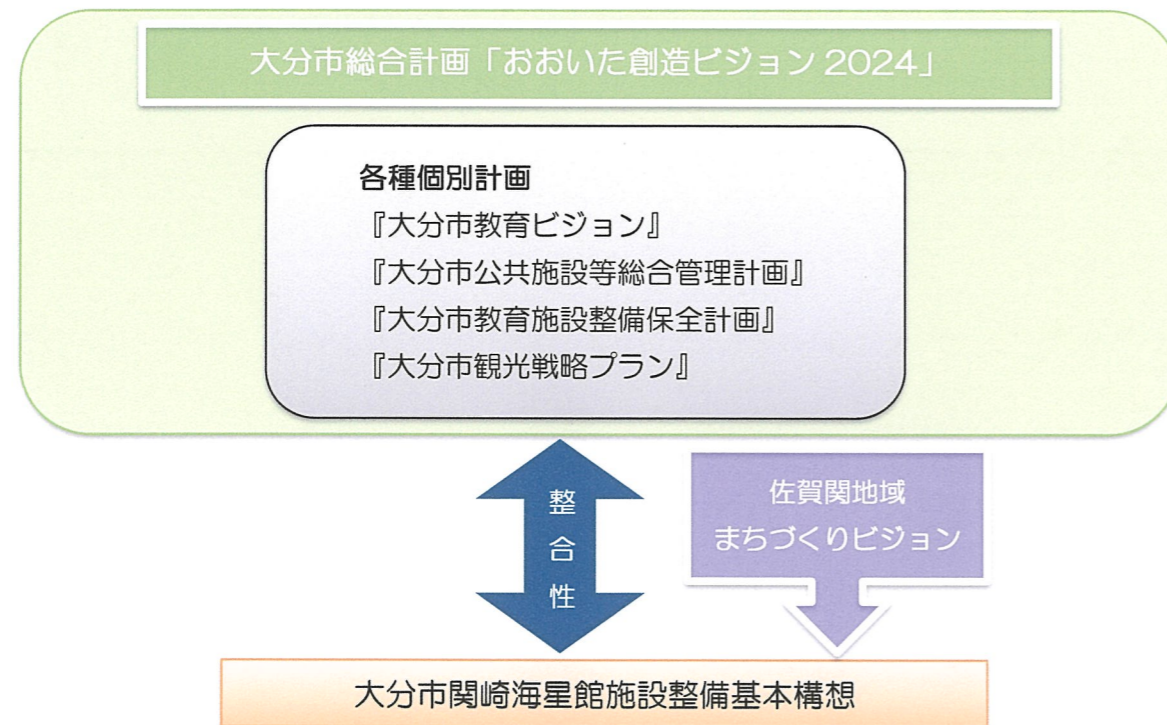
この間、多くの市民の皆様が親しまれる施設として、年間約2万5千人の方々にご利用いただく中、地域の皆様をはじめ多くの方々から「関崎海星館の魅力をさらに向上させてほしい。」という声があり、これからも長く活用できる施設としての改修や、バリアフリー化等、施設の機能強化を実施する必要性が高まってきているところであります。また、本市の科学教育を推進する施設としての機能整備も併せて考えていく必要があります。

本基本構想は、本市と同規模の都市が設置している科学館の状況調査等をもとに、関崎海星館の現状、特性や課題を把握するとともに、今後求められる役割、導入が望まれる機能等を踏まえ策定したものです。

新たな関崎海星館は、「星と海と人がつながり心の宝物に出会う場所」のコンセプトのもと、子どもから大人までが、星、海、自然に対する興味・関心を高め、主体的に学べる場として、市民をはじめ多くの方々から長く愛される魅力ある社会教育施設を目指します。

2 基本構想の位置付け

本基本構想は、大分市総合計画「おおいた創造ビジョン2024」をはじめとする本市の上位計画等、関連する各種計画との整合を図るものとします。



3 関崎海星館の特性と課題の整理

関崎海星館の特性

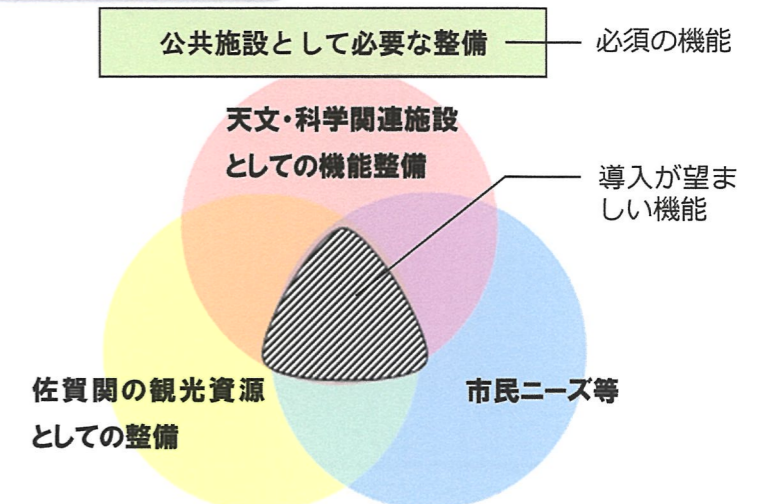
- 入館者の特性
 - ・入館者の構成は大人8割、こども2割。
 - ・皆既月食・日食や、流星群・惑星の接近などの天体ショーの際には多くの天文ファンが集まる。
 - ・1月には初日の出、5月、6月には長距離を渡る大型の蝶アサギマダラや施設周辺に広がるアジサイを求めて多くの観光客が訪れている。
- 立地の特性
 - ・施設は、大分市中心部から車で1時間ほどの佐賀関半島の岬に位置し、展望室からは別府湾、瀬戸内海、豊後水道といった海が300度のパノラマで広がる。
- 施設の特性
 - ・大型天体望遠鏡を、開館日の全ての時間で一般公開している。
 - ・社会教育施設としてだけでなく、佐賀関地区の観光の拠点としての役割を担う。

関崎海星館の課題

- 施設の長寿命化及びバリアフリー化への対応
 - ・建築後24年が経過し、施設の長寿命化及びバリアフリー化への対応が求められている。
- 設備の老朽化への対応
 - ・開館時に設置した大型天体望遠鏡の経年による不具合が発生し、部分修繕のための経費と時間がかかっている。
- 建物へのアプローチ
 - ・敷地入口から建物の正面入口が見えないため、来館者を施設内に導く演出に乏しいように感じる。
 - ・敷地には訪れるが周辺の景色を堪能するだけで施設へ入館しない利用者が、入館者数の1～2割存在する。
- 道路環境を含む周辺一帯の整備
 - ・周辺道路は道幅が狭いうえに樹木が覆いかぶさり、大型バス等の通行を妨げている。
 - ・佐賀関のまち中に関崎海星館の存在をアピールする演出が乏しい。
- その他
 - ・自然を活かした施設のため、来館者数が天候に左右されやすい。

4 関崎海星館に求められる機能

- 公共施設として必要な整備
 - …バリアフリー対応等
- 天文・科学関連施設としての機能整備
 - …大型天体望遠鏡の再整備等
- 佐賀関の観光資源としての整備
 - …関係部署・機関との連携等
- 市民ニーズ等
 - …プラネタリウムの設置等



5 基本的な整備の方向性

コンセプト「星と海と人がつながい心の宝物に出会う場所」

子どもだけでなく利用者一人ひとりが佐賀関の魅力を感じるとともに、海から宇宙へと想いを馳せ、普段体験できない非日常を楽しみ、特別な思い出が残る施設となることを目指します。

○ハード面の整備の方向性

- ①建物改修を実施し、施設の長寿命化及びバリアフリー化を図ります。
- ②天体望遠鏡のリニューアルを検討し、天文施設本来の機能の充実を図ります。
- ③新たにプラネタリウム設備の導入を検討し、県内では初めて一般客が常時利用できる設備として、利用者満足度の向上を図ります。
- ④展示物や展示方法を工夫し、利用者満足度の向上を図ります。
- ⑤アプローチの見直しと駐車場の再整備を検討し、入館者数の増加と利便性の向上を図ります。
- ⑥周辺の道路整備を促進するために、関係機関との連携を図ります。

○ソフト面の対応について

- ①自然を観察し（展望台）、星夜を体験し（望遠鏡）、多くを学ぶ（プラネタリウム）という場の構築を図ります。
- ②星や海をはじめとした自然への主体的な学びの場を提供します。
- ③星や海に関する学習の場として、学校教育との更なる連携を検討します。
- ④自然や昆虫と触れ合える施設として、保育園や幼稚園等の更なる利用促進を図ります。
- ⑤プラネタリウムや展示では、佐賀関地域の歴史・魅力を発信し、観光も担える施設としてのソフトの充実を図ります。
- ⑥天体に加えて、瀬戸内海国立公園の自然や花々、生き物などの特性を生かした、独自の取組を行います。（植栽、展示など）
- ⑦所属部署をはじめ関係機関と協力することにより、関崎灯台をはじめ、佐賀関地域の観光資源の連携を図ります。
- ⑧飲食コーナーの充実を検討します。

◆ハード面の整備のイメージ図

